※このテンプレートを用いるときは、レイアウトを変えないでください。

『言語研究』和文テンプレート

—副題・副題・副題—

（著者名は記載しないでください）

キーワード：言語，言語学，一般言語学，文法，意味 （5つ以内）

（以下本文。要旨はファイルの末尾に付けてください）

# 原稿の様式について

## 本テンプレートについて

このテンプレートは，雑誌『言語研究』の執筆要項に準拠した，Microsoft Word用の和文テンプレートです。同誌に和文論文を投稿する際には，このテンプレートを利用してください。

執筆の際，余白や文字サイズ，行送り等の書式は変更せず，このテンプレートをそのまま使用してください。細かな注意事項については，1.3節・1.4節を参照してください。

Wordファイル以外の形式で投稿する場合は，このテンプレートと同じ書式で提出してください。このテンプレートと異なる書式での投稿は受理できません。

（前節の本文と次節の見出しとの間は1行空けてください）

## 本テンプレートの使い方

原稿に必要な見出しなどの書式設定は，個々の文字装飾を使わなくても，スタイル機能による体系的な指定を行えるようになっています。たとえば，該当箇所を選択して，「ホーム」→「スタイル」から「強調」というスタイルを選ぶと，**太字のゴシック体**にすることができます。こうした機能を使用せず，手作業で文字装飾等を設定してもかまいません。

また，節見出しを挿入したい場合は，同様に「見出し1」～「見出し5」を選択すると，自動的に「1.1.」などの節番号が自動的に振られるほか，「アウトライン」機能で全体の構成を確認したり，相互参照を設定したり，節番号を選択してTabキーやShift + Tabキーを押すことで見出しの深さを変えたり（2 ↔ 1.3 ↔ 1.2.1）することができます。こうした機能を使わず，手動で節番号等を入力してもかまいません。

## 字数・ページ数等

このテンプレートは， 1ページあたり全角41字×22行 = 902字となるように調整されています。本文・参照文献一覧・要旨，注のいずれにおいても，文字サイズや字間・行間を変更せず，このテンプレートをそのまま使用してください。

「執筆要項」の規定に従い，図，表，参照文献，要旨，注等も含めて，論文は40ページ以内，フォーラム欄用原稿は15ページ以内，書評論文は20ページ以内，書評・紹介は10ページ以内に収めてください。

## 本文の形式

句読点には「。」と「，」（いずれも全角）を使用してください。和文中では，括弧や「？」等の約物には，原則として全角文字を使用してください。英数字を用いている部分のみ，「,」など，半角の約物を使用してもかまいません。

フォントはMS明朝（和文），Times New Roman （欧文），各11ポイントに設定されています。この設定を変更せずにそのまま使用してください。特に，印刷時に本文の分量を正確に把握できるよう，MS P明朝などのプロポーショナルフォントは避けてください。また，11ポイント未満のフォントは，注や参照文献一覧，図表のキャプション等においても使用しないでください。

## 注および参照文献

### 注

注は後注形式です。[[1]](#endnote-2) Wordの脚注機能を使う場合は，「脚注を挿入」機能ではなく，「文末脚注を挿入」機能を使用してください。[[2]](#endnote-3) 「文末脚注」機能を使わず，手作業で注番号と注のテキストを入力してもかまいません。[[3]](#endnote-4)

### 参照文献

本文中で言及した文献は，必ず参照文献一覧に記載してください。また，本文中で言及されていない文献は，参照文献一覧に記載しないでください。文献への言及は，原則として本文中で行ってください。出典を記載するために注を挿入することは避けてください。

参照文献の書式は，別紙「『言語研究』執筆要項」に準じます。ここでは，雑誌論文の引用例として佐久間 (1941) とPostal (1970) を，書籍所収論文の例として金田一 (1955) とKiparsky (1968) を，オンライン資料の例として Bickel et al. (2015) と日本言語学会 (2014) を，それぞれ引用します。

## 例文

例文の書式は，別紙「『言語研究』執筆要項」に準じます。このテンプレートには番号つき例文用のスタイルも含まれていますが，必ずしも利用する必要はありません。

執筆要項にはありませんが，下記の例文のグロスはLeipzig Glossing Rules (Bickel et al. 2015) に従っています。グロスに用いる略語は注などで別途定義してください。[[4]](#endnote-5)

（例文と本文の間は1行空けてください）

1. Tarō =wa kotosi ronbun=o san-bon kai-ta.  
   Taro=top this.year article=acc three-nq write-pst  
   ‘Taro wrote three papers this year.’
2. a. Diné bi-zaad yá’át’ééh.  
    man 3poss-word be.good:3sg   
    ‘The Navajo language is good.’  
   b. Bilagáana bi-zaad ałdó’ yá’át’ééh.  
    white.man 3poss-word algo be.good:3sg   
    ‘English is also a good language.’

(Goossen 1995: 5)

日本語をはじめとする非ラテン文字のローマ字化の方針については，「執筆要項」を参照してください。

## 図表

投稿原稿はA4判ですが、印刷時には縦185 mm×横115 mmのサイズになります。図表を挿入する場合は，このサイズに縮小しても内容が鮮明に判別できるようにしてください。

### 表の例

表には表番号をつけ，上部にキャプションをつけてください。

表1 表の例（Goossen 1995: 4 より改変）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| *nishłį́* | ‘I am’ | *niidlį́* | ‘we two are’ | *daniilį́* | ‘we three are’ |
| *nílí* | ‘you are’ | *nohłį́* | ‘you two are’ | *danohłį́* | ‘you three are’ |
| *nilį́* | ‘he/she/it is’ | *nilį́* | ‘they two are’ | *danilį́* | ‘they three are’ |

### 図の例

図版には図番号をつけ，下部にキャプションをつけてください。

図1 図の例

NP

S

John *i*

VP

V

NP

himself *i*

idealizes

また，画像を用いる場合は，印刷に適した解像度を選んでください。

参照文献

Bickel, Balthasar, Bernard Comrie, and Martin Haspelmath (2015) The Leipzig Glossing Rules: Conventions for interlinear morpheme-by-morpheme glossses. https://www.eva.mpg.de/ lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf [accessed August 2020].

Goossen, Irvy W. (1995) Diné bizaad: Speak, read, write Navajo. Flagstaff, Arizona: The Salina Bookshelf.

金田一京助 (1955) 「アイヌ語」市河三喜・服部四郎（編）『世界言語概説 下』727–749. 東京: 研究社.

Kiparsky, Paul (1968) Linguistic universals and linguistic change. In: Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) Universals in linguistic theory, 171–202. New York: Holt, Rinehart and Winston.

日本言語学会 (2017) 「『言語研究』執筆要項」http://www.ls-japan.org/modules/documents/ LSJpapers/j-gkstyle2017.pdf [accessed August 2020].

Postal, Paul (1970) On the surface verb “remind”. Linguistic Inquiry 1: 37–120.

佐久間鼎 (1941)「構文と文脈」『言語研究』9: 1–16.

要旨

本文の言語にかかわらず，末尾に日本語と英語の要旨をつけます。日本語要旨は400字以内，英語要旨は20行以内である必要があります。

Abstract

Abstracts in Japanese and English should be added at the end of the file regardless of the language of the body text. The abstracts should not be more than 400 characters (Japanese) or 20 lines (English) long.

注

1. 印刷工程の都合上，原稿では後注形式ですが，印刷時に脚注形式に組み直されます。 [↑](#endnote-ref-2)
2. 注はこのように文末にまとめて記載されます。 [↑](#endnote-ref-3)
3. 上付きの注番号を挿入するための「注番号」スタイルは，他のスタイルと同様，「ホーム」→「スタイル」から選択できます。 [↑](#endnote-ref-4)
4. 例： 3 = 三人称、acc = 対格、nq = 数量詞、poss = 所有者、pst = 過去、sg = 単数、top = 主題標識。 [↑](#endnote-ref-5)